



第二中学校だより

R6 ミッション 「期待の登校、満足の下校」



3週間が過ぎました。

校長 小関 直

我が子の幸せを願わない親はいません。私も人の親ですから、日々保護者の皆様と同じ気持ちで過ごしています。

入学、進級から3週間が過ぎました。期待と不安が交錯した新学期、お子さんはどのようなコンディションで過ごしたでしょうか。

異常な環境の中で「正常」な反応をする

まず、我々大人が意識しなければならないことは、子供にとって「入学」、「進級」は、これまでの日常と異なる「異常な環境」に身をおくということです。特に1年生にとっては特別です。小学校でも毎年クラス替えがあったにせよ、6年間かけて醸成された人間関係のなかで、お互いの性格なり個性なりを多少でも理解したうえで迎える新年度のスタートです。小6のクラス替えともなれば慣れたものです。ところが、中学入学は、全く異なります。異なる学校の異なる基準が様々持ち込まれ、性格もよくわからないクラスメイトと学級がスタートするのですから、まさに「異常な環境」です。その異常な環境に①新鮮さを感じ、ワクワクしながら楽しく過ごす生徒もいれば②新鮮さを感じつつもドキドキが先行して様子見をする生徒もいます。異常な環境に③不快感を感じ、小学校の方がよかったと不満を口にする生徒もいます。こうしたことは、2、3年生の進級でも同じような様子が見受けられます。

親としては、①の様子だと安心ですが、②の様子だと「早く慣れて欲しい」と願い、③の様子だと不安な気持ちになるものです。大切なことは、いずれの場合でもお子さんの感情に巻き込まれないということです。なぜなら、お子さんは、異常な環境の中で、いずれも素直な感情を表しているだけで、正常な反応をしているに過ぎないからです。お子さんの話に「うん、うん」と耳を傾け、温かく見守っていただけたら、やがて、お子さん自身の力で異常な環境を日常へと変えていくことができますので…。

異常な環境の中で「異常」な反応をする

ところが、中には、異常な環境に④不快感を感じ、小学校や進級前のクラスがよかったと思いつつも、不満を口にせず、楽しげに学校生活を送ろうとする生徒がいます。

一見、頑張っているようにも見えますが、もしかしたら「異常」な反応をしているのかもしれない。期待に応えなくて、心配をかけてはいけなく、弱いところを見せてはいけなく…。そんな感情が支配し、素直な感情表現にブレーキをかけて苦しんでいるのかもしれない。順調に見えていても、実際はそうではないことも間々あるものです。上述と同様、異常に気付いたら「頑張りすぎていない？」などとコミュニケーションをとり、温かく見守ってあげることが大切だと思います。理解してくれる人がいる、それが支えになります。

先日、そんな反応をしそうな生徒のチーム担任であるベテランの先生に「あの子どもどんな様子？」と尋ねたところ「新学期4月にダッシュするのもいいけれど、自分のペースで1年間のんびり行こうぜ！」と声をかけたとのこと。思わず「さすがだね。」と、最上級のお礼の言葉を添えさせていただきました。

3日、3週間、3か月

私が担任を受け持っていた頃、転校生を迎えるときに、

伝えていた言葉です。

今日はドキドキして登校したでしょ？いろんなことが心配だね。とりあえず「3日間」休まず頑張ろうか。3日目の帰りに、話を聞かせてね。その次は3週間が目標。早く慣れるといいね。それがクリアできたら、次は3か月が目標。嫌なことだってあると思うけれど、多少のことは我慢。一緒に作戦会議を開きましょう。そして、3か月過ぎたらいつの間にかこの学校にも慣れて、楽しい毎日を送っていると思うよ。

人間やみくもには頑張れないものです。不安な時ほど「見通しと振り返り」で、現在地を確認し、目的地を明らかにしてあげたいものです。

新年度スタート前の職員会議で、新学期「黄金の3日間」が話題になり、教員間で共有される場面がありました。クラスづくりの成否がこの3日間ではほぼ決まることは、少し腕のいい教員なら皆知っていることで、常識中の常識です。

そして3週間が過ぎました。生徒の頑張りもあり、どの学年も軌道に乗りつつあります。今後の成長が楽しみです。3年生は、修学旅行に向け、まとまりを大切にしようとする姿勢が顕著に見受けられます。2年生は1つ学年が上がり後輩ができたためか、「らしさ」が加わり、充実した生活を送る生徒が増えました。1年生は、例年にないくらいの騒々しさで、じゃれ合う姿がまるで小学4年生くらいに感じていましたが、部活動の仮入部なども体験し、ようやく中学生生活をスタートさせた印象です。

3か月目を迎える7月上旬まで、多くの喜怒哀楽を伴いながら、子供にとっての日常を築いていくと思います。引き続き、お子さんの感情に巻き込まれることなく、温かく見守っていただけましたら幸いです。

「少年は手を離せ、心を離すな」（「子育て四訓」より）

チーム Up 担任制がスタートして

どこでどう伝わっているのか、他市の公立中学校から問合せが相次いでいます。問合せのいくつかは「うちの学校でも導入しようと思うがうまくいくか？」というものです。答えは当然「知りません」です。始業式で、2、3年生には伝えましたが、多くの生徒に主体的な学びや自治的な態度が身に付いていなければ導入できない制度であり、そうした資質や態度を育ててきた保護者や地域の方の理解が見込めなければ、そもそも導入を検討しなかった制度です。そのことを伝えると、たいがいあきらめるようです。

とはいえ、本校にとっても期待と不安の中でスタートした制度です。現在の進捗や課題は次のとおりです。

- ・チーム内の情報共有が活発になり、複数の目で生徒を見るようになった。
- ・先行事例とは異なり、入学直後であっても、短期間で担任をローテーションした方が、新たな生活になじみやすい生徒が多いと推察される。
- ・日々の連絡を誰にすればよいか、保護者が迷う、との声が複数寄せられている。

連絡の窓口は、「その日の担任」が担うことを想定していましたが、そもそもそれが誰なのか、うまく伝わっていないとの指摘もあります。今後改善に努めてまいります。お子さんに聞いても不明な場合は、チーム内の担任であれば誰でも大丈夫ですので、安心して連絡をいただけたらと思います。